



リレーエッセイ

ハードルを越えて

やの まさたか
矢野 剛教さん

(錦江町)



2018年4月、鹿児島市に完成したユニバーサルデザインの賃貸マンション「ツクルUD」の企画に協力しました。住む人が自分の住みやすいように改造できるので、車いす利用者でも単身入居可能なのが特徴です。

車いす生活をしている私がマンションづくりに関わったのは、不動産会社・窪商事の窪勇祐社長に偶然出会い、かつて住居探して苦労した自分の経験談を聞いてもらったのがきっかけでした。「段差のある部屋で一人暮らしはできない。車いす利用者の目線に立った住居づくりを一緒に企画してくれたら、良いものができるのに」と率直な思いをぶつけたところ、窪さんは熱心に話を聞いてくれました。それから1年ほど経って、「矢野さんの思いを形にしたい」と窪さんから連絡をもらった時は正直驚きました。「これはしっかり向き合わない失礼になる」と感じ、知り合いの当事者5人に協力を呼びかけたところ、全員が快諾。それぞれの視点から意見を出し合う中で、手すりをつける・つけないなど人によって使いやすい設備や環境が異なることが分かり、窪さんと管理会社ツイン・ビーの田中祐介社長が、住む人自身の状況に合わせて改造できる“DIY賃貸”を提案してくれて、完成に至りました。

今回の経験を通して、障害があっても誰かの力になれる、また、障害のためできないことでも形にしてくれる人がいれば実現できると気付いたことは、これまで周囲の人が当たり前に行うことができず、悔しい思いをずっとしてきた私にとって大きな喜びでした。

脳性小児まひが原因で3歳からリハビリに励んできましたが、子どもの頃は辛いリハビリに耐えて歩けるようになることが目標でしたし、歩けるようにならないと働くこともできないと思っていました。16歳を過ぎて体が硬くなり、一生歩けないとわかった時には挫折を味わいましたが、大学卒業後、障害者支援センターに就職すると、リハビリを続けることの大切さと車いすでも働けることを実感できました。今では、人の助けが必要な時には助けてもらいながらも、自分の意思で自立した生活を成り立たせることが大事だと考えています。

今回の企画で、「『ツクルUD』に実際住むわけではないのに、なぜここまで一生懸命になるの？」と設計担当者に聞かれましたが、それは障害のある人の選択肢を増やしたかったから。現在一緒にリハビリに励んでいる子どもたちが明るい未来を描けるような環境を整えたいという思いがあったからです。これからも、今勤めている役場で福祉に携わりながら障害のある人の支えとなり、その一方で自分自身も障害者スポーツなどさまざまなことに挑戦していきたいと思っています。



使用した物（写真上）は、シンク（写真上）に物を置くだけで済むよう設置されたキッチン（写真下）は、手すりや補助器具を必要なく利用できる状態に改造後、退去時の原状回復



「ツクルUD」は、鹿児島市鴨池（1階）の3階（1K）の賃貸マンションで、車いす利用者が改造後、退去時の原状回復

有限会社 窪商事
鹿児島市下荒田3丁目33-8
TEL 099-251-8822 FAX 099-253-4880

